

事後報告書 エジンバラ法律英語研修

1. 研修前

私は入学前から海外留学に興味があり、今回の研修で自分の英語を試したいと思った。英語力など不安な面はたくさんあったが、母や先生方の勧めにより、参加することに決めた。自分は英語については受験英語のみで英会話などは全くやっていなかったため、ホームステイ先でうまくやっていけるか、授業についていけるかとても心配だった。事前授業には参加していたが、もう少し渡航前に英語の学習をしておけばよかったと思う。

2. 授業

すべて英語での授業で法律の知識がないため、理解するのが難しいことが多かった。わからないところは先生と一緒に研修に参加している人に聞いて何とか理解することができた。いままで聞いたことのないような法律単語が多く、覚えるのが大変だった。研修2週目からはリサーチプロジェクトに取り組んだ。街頭調査をするのは緊張したが、どの人も丁寧に答えてくれて興味深い意見をたくさん聞いた。リサーチプロジェクトの発表は全員のまえて発表だったためとても緊張したが、授業で学んだプレゼンのテクニックを使いながら、発表できたと思う。発表が終わってから、先生方にいつもの授業のときよりも自信をもって英語を喋っていたといわれて嬉しかった。授業で学んだことをこれからに活かしていきたい。

3. 観光

エジンバラは歴史と伝統の残った街で、暇があるときはエジンバラ市内に出かけていた。プリンセスストリートで買い物をしたり、エジンバラ城で観光したり、充実した時間を過ごすことができた。休みを使ってロンドンにも行った。劇場でミュージカルを見たり、観光地巡りをした。エジンバラとは全く違う街並みで、近代的な建物や日本食のレストランが多かった。有名なビックベンは見れなかったが、大英博物館やバッキンガム宮殿など、3週間の研修で様々なところに訪れ、新しい経験をできてとても楽しかった。



ロンドンの街並み

4. ホームステイ

私はホームステイの経験がなく、どういう風に接すればいいのか全く分からず、最初の一種間はあまりしゃべれなかった。自分の部屋にこもりたかったが、少しでも英語をしゃべる機会を増やそうと宿題するとき以外はなるべくリビングにいるようにした。頑張って話していても、What?といわれるとメンタルが折れそうになったが、インターネットで単語を調べながらなんとか会話するようにした。ホストファミリーはとても優しいひとで忙しくても私の話をきちんと聞いてくれて嬉しかった。イギリス料理はまずいとよく言われているが、ホストマザーの料理はいつもおいしく、様々な国の料理を作ってくれた。日本に関心のある家庭で、日本食を出してくれることも多かった。最初は何を喋ればいいのかわからなかったが、最終日近くになると自分の言いたいことを英語で伝えられるようになり、会話を楽しめた。ホームステイを通してたくさんの経験ができ、素敵なホストファミリーに出会えて本当に幸せだと思った。



ホストマザーが作ってくれたスコーン



ホームステイの部屋

5. 研修後

研修を通して、英語の勉強だけでなく、イギリス法律や文化など本当にたくさんのことを学ぶことができた。今回学んだことを無駄にすることなく、これからに活かしていきたい。研修の三週間はほんとあっという間なのでしっかりと目標をもって行動することが大切だと思った。慣れないことばかりで3週間のなかで辛いこともあったが、一緒に研修に参加した仲間助けられながら、充実した時間を過ごせた。

エジンバラ大学法律英語研修報告書

まずは研修内容について、基本的に平日の午前中には学校に行って9:00~13:00までの間授業を受けていました。ただしずっと通しでやっていたわけではなく途中で休憩をはさみつつの授業であったので別段苦を感じるということはありませんでした。授業の形式としては、法学系の授業は講義形式でした。その中では普段の日本の大学での授業と同様に先生がその日の内容について話すことを聞くのですが、グループワークやちょっとしたディスカッションもあります。また、法学系ではなくて語学についての授業は発音、イントネーション、デリバリーテクニックに至るまで「英語を話す」ことにより特化した授業でした。毎週何かしらの形で発表することがあり、多少忙しさはあるものの充実した学びを得られたと思います。次に学生生活として、まずエジンバラ大学の学生2名がメンターとして私たちの学習のサポートをしてくださいました。またそれだけではなく、エジンバラ市街地の案内や大学ツアー、他には放課後の活動の企画・運営をしていただきました。具体的には学園祭やダンスパーティーなどです。そういった課外活動だけでなく、普段の会話もたのしむことができました。会話の上達という点で考えると、このことは大きな一因になったと思います。

本研修では私たちはホームステイという形で滞在したのですが、スピーキングから文化にいたるまでかなり広い範囲にわたって学ぶことが出来たのはこの形をとったからこそといえると思います。私のホストファミリーはご年配のご夫婦でした。週4日間の食事は大変美味しいものであり、



「イギリスのご飯が美味しくない」というのは単なる噂、あるいはどうの昔のことなのだと感じました。ホストファミリーは大変面倒見の良い方で、拙い英語であっても聞き取ってくださったり、積極的に話してくださったりと私にとっては不慣れな異国における居心地のよい場所となりました。

次に放課後や週末の過ごし方について、放課後は翌日の授業や発表の準備がなければ、市街地を観光しました。博物館や美術館に行ったり、ショッピングをしたりとエジンバラの街が魅力に溢れているということもあってやることは尽きませんでした。市街地はエジンバラはどこも基本的に治安はかなり良いところであって、荷物か

エジンバラ大学法律英語研修報告書

ら目を離す等々不用心なことをしなければ何も悪いことは起こらないと感じました。また、週末にはエジンバラ以外の街に外出しました。私は2週目の週末に1泊2日でロンドンへ行き、観光してきました。正確には金曜日の夜に夜行バスに乗り、土日をロンドンで過ごし、日曜の夜の夜行バスで月曜の朝にエジンバラに戻る、というスケジュールでした。ロンドンでは自分たちでホテルに泊ってみたり、いろいろなものを見て回ったりとこちらも楽しさはあった一方で、「外国」であり、治安の悪さや自分たちがアジア人であることゆえの差別について考えさせられました。スリ集団との遭遇や、何か言われてしまうのではないかという恐怖感等々、いろいろな意味で貴重な体験ができたことと思います。

最後に、まとめとしては私は本研修を通して、日本にいたままでは絶対に経験することのできないものを得られたと思っています。正確に理解できたかどうかわからないけれども、また日本での法学の学びにどう生きるかはまだわからないけれど英国法の特徴や日本との違い、日本ではまずありえないほどのあちこちで見かけるホームレスの人々、日本のそれと比べると取り上げるものがかなり違うニュース番組、単に英語を学んでいるだけではわからない英語の訛り……。枚挙に暇がないほど多くのことを知り、そして得ました。研修を終えた以上、これからは英語力、特にスピーキングは落ちていくことと思いますが、これから自分でできることを探して伸ばすとはいかずとも英語力を維持するくらいはやっていきたいとおもいます。



エジンバラ法律英語研修事後報告書

1. はじめに

私は以前から留学に興味があり、しかしその一方でいきなり長期の留学をすることには不安を感じていた。そのような私にとって 3 週間イギリスで法律について英語で学べるというこのプログラムはとても魅力的に感じ、参加を決めた。この 3 週間慣れない環境でもちろん大変なこともあったが、一方でその大変な部分も含めて非常に刺激的で自分の視野を広げることができたと思う。ここでは私がイギリスで経験したことについてその一部書いていきたい。

2. エジンバラ大学での授業

大学の授業ではスコットランドの法制度や政治について学ぶだけでなくプレゼンやそれにむけた準備も行った。スコットランドの法制度や政治の授業は、私がそれらについて全く知らなかったこともあり、難しく理解しにくい部分も多かった。しかし授業のなかででてきた分からない単語を授業中や授業後に自分で調べながら理解していく過程が私は好きだったため、楽しんで授業を受けることができた。プレゼンやそれに向けた準備の授業では、うまくプレゼンするヒントをたくさん教えてもらい、また練習として人前で話す機会も多く設けられていた。そのためこの研修を通して人前で話すことに対しては以前よりも自信がついた。大学では英語のプレゼンをしたが、ここで得たことは英語だけでなくこれから日本語でプレゼンする際にももちろん役立つと思う。また、大学の先生は私たちに質問の機会をたくさん与えてくれ、質問すると私たちが理解できるまで丁寧に説明してくれた。そのため普段あまり質問することができない私でも先生にたくさん質問することができ嬉しかった。

3. ホームステイ

私のホームステイ先にはお母さんと高校生の子ども、それとフランスからの留学生が 1 人一緒に暮らしていた。ホームステイ先に到着するまで私はホストファミリーと仲良くなれるか不安に感じていたが、家に着くとホストマザーが温かく迎え入れてくれたのでとても安心した。それでも初めの数日間はまだ緊張がとれなかった。しかし時間が経つにつれてホストファミリーともたくさん話をし打ち解けることができ、ホストファミリーと一緒にご飯を食べながら話をする時間は 1 日の中で私の最も好きな時間になった。ホストファミリーはその日に何をしたかなどたくさん私に質問して話を続けてくれた。初めは話すことに精一杯で聞かれたことに答えるだけだったが、だんだん余裕ができ自分からもホストファミリーに質問したり話題をふったりできるようになっていって楽しかった。最後の週にはホストファミリーと一緒にケーキを焼けて良い思い出ができた。



←ホストファミリーと作ったケーキ

4. 放課後

午後からは授業がなく自分たちの好きなことができた。カフェに行ったり観光をしたり、宿題が多い日には大学に残って勉強することもあった。大学の周りにはたくさんのカフェがあり、行きたいところに全部行くには3週間では足りないほどだった。放課後には大学のメンターと一緒に活動することもあった。その活動の中で私が1番印象に残っていることはケイリーというダンスパーティに参加したことだ。会場に行くと老若男女問わず多くの人がその場で演奏される音楽にあわせて踊っていた。まったく知らないその場で出会ったばかりの人とグループを組んでダンスすることあつて緊張したが、みんな優しく教えてくれてとても楽しかった。日本では経験したことのない新鮮な体験だった。



5. 最後に

3週間という短い期間だったが、その中で様々な体験をして多くのことを学び、非常に刺激的な時間を過ごすことができた。この研修を通して感じたり考えたりしたことを忘れずこれからに生かしていきたい。

エジンバラ大学法律英語研修報告書

金沢大学法学類 1 年

1 事前研修について

エジンバラ大学へ留学する前に、事前研修があります。事前研修では、手続きの説明やエジンバラ大学で行うプレゼンのテーマ決めや、各自のテーマに関する下調べを英語で発表するプレゼンがあります。頻度は1~2週間に1回です。

また、事前研修とは別に、「留学生に日本の司法制度を英語で説明する」といったことを行う講義を受けることが求められます。

2 エジンバラ大学での学習について

エジンバラ大学での授業は主に午前中に行われます。授業は午前9時に始まり午後1時に終了します。日によっては午後2時から施設の見学に出掛けたりします。今回の研修では2人の先生と2人のメンター（僕達のサポートをしてくれるエジンバラ大学の学生の方）にお世話になりました。皆さんとても手厚くサポートしてくれますので、授業に関して不安を抱くことはほとんど無かったです。

授業の内容についてですが、何も始めから難しい授業をする訳ではありませんでした。初日の授業は簡単な自己紹介や発音の練習等といった初歩的なもので、日を追う毎にレ

ベルが上がっていき、最終的には2~3人1組の英語で行うプレゼンをします。法律英語研修というだけあり、英語のスキル（主にディスカッション）を磨くだけではなく、イングランドやスコットランドの司法制度の仕組みなど、かなり専門的なことを勉強します。具体的には、法律用語の意味や様々な司法機関の役割の学習、イギリスの裁判制度の仕組み、民法や刑法などの勉強になります。

もちろんこれらの勉強も重要ですが、この研修に参加するに当たって忘れてはならないのがプレゼンです。今回の研修では、合計2回のプレゼンを行いました。1回目は2人1組のポスターセッション形式で、名古屋大学からの留学生の方々にも自分達のプレゼンを聞いて頂きました。内容は「現代の刑法や民法に関する過去の重要な事件」です。僕は、重婚（同時に2人以上の相手と婚姻関係を結ぶこと）にまつわる事件をプレゼンで紹介しました。重婚は日本では民法の領域ですが、イギリスでは刑法の領域で、こういった違いをより詳しく知ることができました。2回目のプレゼンは、2~3人1組のペアで自分達が調べたテーマについてのプレゼンを、自作したスライドを用いて行います。スライドを作成するに当たって、エジンバラの大学や街頭でアンケートをする必要があります。知らない人に話しかけるのはとても緊張しましたが、大変いい経験になりました。尚、このテーマに関しては出国よりも前の段階の事前研修で決めます。僕とペアが選択したテーマは『高齢ドライバー』です。日本では多くの人が知っているであろう社会問題ですが、アンケートの結果エジンバラでは日本とは少し違い、「高齢ドライバー

も確かに危険だが、それよりも若者の運転の方が危険だ」という意見を持つ人が多かったです。日本とエジンバラでの意見の違いがなぜ生まれるのかを考えた結果、「日本ではテレビや新聞などのマスメディアがこの問題について盛んに報道していた時期があったために認知度が高いが、エジンバラやスコットランドでは高齢ドライバーについてあまり取り上げられなかったために人々の認知度が低いのではないだろうか」、という推測をしました。

3 授業以外の過ごし方について

寝泊りは基本的にそれぞれのホームステイ先で行います。朝食は毎日ホストファミリーが用意してくれるので、それを食べてから大学に向かいます。昼食は大学近辺の店で食べることもできますが、少々値が張るのでコンビニでサンドイッチなどを買うことが多かったです。夕食については週4回ホストファミリーが用意してくれます。ホストファミリーによってはスコットランドの伝統料理を出してくれるところもあります。左下の写真は僕のホストファミリーが出してくれたハギスという羊を使った伝統料理です。夕食が用意されない残りの3日は外食になります。エジンバラにはいいレストランやパブ（日本で言う居酒屋）が沢山あるので、店には困りませんでした。右下の写真はパブでの食事です。因みにスコットランドでは18歳から飲酒が許可されているので合法的に酒を飲むことができます。よく「イギリスの飯は不味い」と言われますが、3週間の

研修の中で食べた食事はどれも美味しかったです。



平日の授業後や休日の過ごし方は人それぞれです。ショッピングに出かけたり、観光名所を見て回ったり、お土産を買ったり、カフェを巡ったりと、様々な楽しみ方があります。今回の研修では休日を利用してロンドンに出かける人が半数以上いました。僕自身も電車を利用してロンドンに観光に行きました。大英博物館やバッキンガム宮殿などの観光名所には1度行ってみたいと思っていたので、とても楽しめました。



大英博物館↓



バッキンガム宮殿↓

4 研修を振り返って

今回の研修を振り返ってまず始めに思うのは、「やはり行って良かった」ということです。海外に長期滞在するのは初めての経験だったので不安もありましたが、終わってみればとても充実した3週間を過ごすことができました。

もしもこの研修に興味を持ってくださったのなら、説明会が開かれると思いますのでぜひそちらの方に参加してみてください。より詳しい話が聞ける筈です。

拙い文章ですが最後まで読んで頂きありがとうございました。



人間社会学域法学類

私は2/15-3/7までエジンバラ法学研修に参加しました。今回は、私が参加した研修の内容等を書いていきたいと思います。

留学前研修

留学前研修は全部で8回程度あり、内二回はエジンバラ法学研修の1番重要な最終プレゼンテーションの為に準備としてプレゼンテーションをする時間がありました。その他にも、エジンバラ出身の先生からエジンバラの観光地や交通機関の事なども伺いました。私たちの時は6限に事前研修があったので正直大変でした。また、東川先生によって行われる「英語で学ぶ日本法」という授業を事前研修の一環として受けていました。この授業では留学生が日本の法律に関する事について学ぶ授業の中に入るという形でしたので、英語を練習するという意味ではとてもよい時間でした。

エジンバラ大学での授業

エジンバラ大学での授業は月から金の9:00-13:00までで先生2人とmentor(授業のサポートをやってくださるエジンバラ大学の学生さん)2人という形でした。この学校では、授業だけでなく、普段の生活などで困った場合にも対応して下さったり、細かく授業やホームステイ先などに対するアンケートなど海外留学や海外に行くことが初めての人でも安心して行けるようなサポートがしっかりしていました。授業の内容は、イギリス法の中の民法と刑法に重点をおいた授業でした。法律の中で使われる専門用語を習うことから始まり、ポスターの作成発表また最終プレゼンテーションという流れで授業が行われていきます。専

専門用語を学んだり、民法や刑法の基礎を学ぶ授業なので、1年生の私にはすこし難易度が高いと感じました。個人的には2年生以上の方が行くとより理解が深まるのではないかと思っています。しかし、法学研修という名前ではありますが、英語での会話のコツなど日常生活で使える実用的な英語も学ぶことができます。さらに、スコットランドの議会や裁判所に訪問する機会もあり、普段なら行かないような場所にも行くことができることがこの研修の魅力だと思っています。これらに加えて、mentorの方々が放課後にさまざまな所に連れて行ってくださるオプションツアーもあります。

ホストファミリーとの生活

私のホストファミリーはマザー1人と猫だったのですが、とても良くしてくださいました。夜ご飯の後は2人で寝るまでテレビを見て過ごしました。2人で過ごす時間は少なかつたものの、本当の家族のように暖かく迎えてくれ、扱ってくれました。イギリスの料理はまずいということで有名だと思いますが、ホストマザーの料理はどれも美味しかったです。

スコットランドという街

午後は授業がない日が多く、週末には授業は完全に無いので、スコットランドやスコットランド以外の街など様々な場所に行くことができました。エジンバラだけでも3週間では足りないぐらい沢山の観光名所があるので飽きることはありませんでした。また、比較的治安もよいと感じました。しかし、スコットランドの気候はとても風が強く、雨が多かったので傘をさすことができず、フードのついたコートでは無かったので、苦労しました。できるだけフードのついた服を着ることが好ましいと思います。



↑街中の景色



↑ エジンバラ城



↑ Calton hill

留学を終えて

事前研修など行く前は大変なことが多かったですが、いざ行ってみると様々なことを経験でき行ってよかったと心から言うことができます。3週間で英語を伸びた！という実感を掴むことは難しいと思いますが、まずは3週間海外に行き生活ができたこと自体が自分の自信や人生経験に繋がると思います。もし、この研修に参加することを迷っている方がいるなら、是非参加してほしいと思っています。

私がこの研修に参加しようと思った理由は、大学生のうちにはしかできないことをやりたいという思いがあったからです。そして、教科書や六法などと向き合って勉強する時間が多いため、実際に現地に行って英語や法律を学ぶことのできる研修はとても貴重な機会でした。エジンバラに着いて最初に、その景観の美しさに驚きました。石造りの重厚な建物や、中世ヨーロッパのような街並みに感動しました。

1. 授業について

主に、イギリスの法と専門用語、プレゼンテーションの仕方を学びました。法律に関しては、日本と異なる制度が面白かったです。たとえばスコットランドでは **barrister**、**solicitor** という 2 種類の弁護士がいて、それぞれ異なる役割・裁判所で活躍します。日本の弁護士にはそのような区別はないため、とても新鮮でした。また、スコットランドはイ



図 1 エジンバラの街並み

ングランド等とは異なる独自の法も存在しており、イギリスが連合王国であるがゆえの法制度だと思いました。歴史的背景も絡んでくるので、世界史を復習しておけばもっと理解しやすかったのかなと感じました。難しい内容でも、先生や **mentor** が丁寧に疑問に答えてくださって、とても助けられました。また、議会や裁判所も訪問しました。ここでも日本と違う箇所を見つけられて興味深かったです。

スピーキング関連の授業では、英語のアクセント、強調、リズム感の大切さを教わりました。これが非常に難しかったですが、先生が明るく楽しくレクチャーしてくださるので、練習すればできるという希望をもらいました(笑)。その他、イギリスの著名な判例を用いてポスターセッションをしました。予め用意していた内容はよかったのですが、**visitor** たちの質問に英語で答えるのは難しかったです。また、最後のプレゼンテーションでは、私たちは高齢者福祉について扱いました。街頭インタビューでは多くの方々が快く応じてくださいました。制度が複雑で、調査やまとめに苦戦したりしましたが、なんとか発表することができました。先生に教わったことすべては生かしきれなかった感はありましたが、この経験を踏まえて、今後の発表に生かしたいです。

2. 余暇について

授業は午後の早い時間に終わることが多かったため、観光、ショッピング、カフェ巡

り、パブ、Ceilidh(スコットランドの伝統的な踊り)に行ったりするなど、様々なことを楽しみました。2週目の週末には、ロンドンに行きました。電車で行ったのですが、20分も遅刻して到着しました。あとで知ったことですが、イギリスで電車が遅れるのは結構当たり前だそうで、これもある意味では良い経験ができたかなと思っています。金曜の夜にミュージカルを観たのですが、とても素晴らしかったです。おすすめです。ロンドンに行ったことによって、エジンバラの良さも再認識できました。



図 2 スコットランドでのアフタヌーンティー

3. ホームステイ

日本人を受け入れるのは初めてだという家庭にお世話になりました。4人と2匹の、とても親切でユーモアのある素敵なホストファミリーでした。写真は、ホストマザーのリクエストでお寿司を作った時のものです。すごく喜んでくれました。キリスト教の伝統に由来する Pancake Day には、ホストシスターがパンケーキを焼いてくれました。



図 3 ホストマザーが材料を揃えてくれました

た。イギリスの文化や、かつて住んでいたフランスやスイスについても沢山教えてもらいました。しかし、私の英語力のなさゆえに、言いたいことをうまく伝えられない場面もあって、もどかしい気持ちになることもありました。それでも温かく笑顔で接してくれたホストファミリーには感謝の気持ちでいっぱいです。

来る Pancake Day には、ホストシスターがパンケーキを焼いてくれました。

機会があれば、「People love it, or hate it.」と言われている Marmite を試してみたいです。これはトーストに塗るものなのですが、新しい味でした。毎朝テーブルに並んでいて思い入れがあったので、私は日本に買って帰りました。ほかにも、映画を観たり、犬たちと散歩したり、楽しい時間を過ごすことができました。

コロナウイルスで大変な時期でしたが、無事に研修を終えることができ良かったです。この3週間で、景観や文化施設、人々を含めてエジンバラのことが大好きになりました。一緒に参加した日本人学生たちにもいろんな場面で助けてもらい、仲良くなれて嬉しかったです。授業では、楽しさと同時に法律の知識や英語力が乏しいことを実感しました。これは、残りの大学生活でもっと勉強をがんばろうという気持ちにさせてくれました。来年度はリサーチと同様のテーマを扱うゼミを選択したので、そこでさらに理解を深めていきたいと思っています。このような機会に感謝しています。なかなかできない経験だと思うので、ぜひ参加してみてください。

氏 名 大久保啓悟
学 類 法学類

エディンバラ研修の事後報告

三週間の研修を終えて、研修期間における授業内容をはじめとした、イギリスで私が経験したことをここに報告させていただきます。

まず、その授業内容なのですが、正直、一年生の私からしたら、難易度は割と高く感じました。専門用語を英語で学ぶことはもちろん難しいのですが、まだ学んでいない分野を英語で学習するということがとても苦難に感じました。しかしながら、どの授業も共に留学していた仲間とコミュニケーションをとりながら授業を進めていく形だったので、とても取り組みやすかったです。私たち留学生を担当してくださったエディンバラ大学の先生方の態度も非常に温厚で、聞き取りやすい発音で話しかけてくださったことも、取り組みやすかった要因の一つだと感じています。事前研修から取り組んでいたペアワークにおいて、私は「子供の貧困」をテーマにしていたのですが、実際イギリスに行ってそのテーマに取り組んだ際に感じたことは、ネガティブなことになりますが、時間が足りないということと、自身が事前研修から大して変わっていないということでした。単純に準備不足だったせいなのかもしれませんが、最終プレゼンの一週間前に判例を取り上げた別のプレゼンをしてから各々のテーマに取り掛かるということには、他の活動もあったりもしたので少し無理があるのではないのかと感じました。そのような感じで少しバタバタしてしまった結果、先生方からはお褒めの言葉をいただいたものの、私自身としては、あまり納得のいく成果を得ることが出来ませんでした。しかしながら、メンターの方々のサポートもあったおかげか、そんな忙しい中でもスコットランド議会の見学や裁判の傍聴、エディンバラバスツアー、ダンスパーティーへの参加などとても楽しむことが出来ました。ほぼほぼ満足のいく研修内容だったと感じています。

次に、研修内容以外の、ホームステイ先や街中での体験に関して述べさせていただきます。コロナウイルスの影響もあり、アジア人の私たちに対する偏見があるのではないのかという懸念があったのですが、ホストファミリーを含め、エディンバラではそのような偏見は一切感じませんでした。むしろ暖かさというのを感じました。ホストファミリーの方とは、もちろん英語での会話だったので、意思疎通がうまく取れない時もしばしばありましたが、一緒にテレビを見たり、散歩をしたり、ホストファミリーの親戚の方と遊んだりするなど、とても楽しい時間を過ごすことが出来ました。イギリスの料理はおいしくないといううわさを日本では耳にしたのですが、実際食べてみると、とてもおいしかったです。イギリスではお酒は18歳から飲むことが出来るので日本では行ったことのなかったパブにも行き、本場のウイスキーを飲むなど、普段はできない経験をすることが出来ました。週末にはロンドンに行ったりもしたのですが、個人的には街並み、人々ともにエディンバラの方が良いと感じています。エディンバラはハリーポッターのモデル都市というこ

ともあり、私が想像していたような、昔ながらの西洋風の建物が立ち並ぶ美しい街並みでした。

最後に、この研修を通して、私から今後この研修に参加することを検討している方にアドバイスを残してこの事後報告を締めくくらせていただきます。イギリスはとても過ごしやすい国で、皆さんが想像するような西洋の国であり、新しいことをたくさん経験することが出来ます。ただ、注意していただきたいことは、物価の高いということ、天気が基本的に悪く、風が強いということ、そして、スリです。物価が日本と比べて高いので最初からお金を使いすぎるのではなく、なるべく節約することをお勧めします。カードは作ったほうがいいです。天気は、正直、金沢よりも悪いです。寒いうえに強烈な風が吹きつけるので、暖かい恰好は欠かせません。そして、最も警戒してほしいのはスリです。エディンバラは治安がいいので心配する必要はあまりありませんが、ロンドンに行く人は本当に気を付けてください。僕自身ウェストポーチを襷掛けして行動していたのですが、それでも財布を奪われかけました。奪われかけたことにもすぐには気づきませんでした。少数の女性グループが署名活動を装って近づいてきたのですが、言葉が通じないということもあり、本当に巧妙な手口です。大都市に行く人は本当に気を付けてください。以上を事後報告とさせていただきます。ありがとうございました。

写真は左から1、2、4枚目はエディンバラの、3枚目はロンドン（タワーブリッジ）の写真です。



● 学習面

まず 1 週目に全体の法律システムの大枠を学んだ。中でも、スコットランド法とイングランド法の差異はよくわかっていないことばかりだった。例えば陪審員の人数もイングランドでは 12 人、スコットランドでは 15 人で、多数決の必要最少人数も異なることには驚いた。事前の学習で、留学生から聞いていたイギリス法というのは、スコットランドの法律だったのか！と腑に落ちた。なじみの薄い英米法の特徴の単語などは少し難しく感じたが、デイビッド先生がわかりやすく説明してくれたため、研修が終わるころにはよく理解できた（と思う）。また、スコットランド議会（Scottish Parliament）や、刑事上級裁判所（High Court）の見学は、通常短期間の観光ではまず行くことはないところだと思うので、非常に良い機会であった。日本と比較すると、議事堂についてははかなり現代的な外観であったことや、裁判所の法廷が意外と狭かったことが印象的である。

● 生活面

ヨーロッパ圏に行くのが初めてだったので、建物など周りの景色がとても新鮮に感じられた。その中でも、エジンバラでは車が左側通行なことや、水道水が飲めるというのは意外だった。気候については、金沢と同じくらいと聞いて準備していったが、最初の 1 週間の天気は嵐という言葉がぴったりなくらいに風が強く、金沢とは違う種類の寒さを感じた。乾燥については、自分はそれほど感じなかったが、周りの友達が乾燥していると言っていたので、実家（長野）>エジンバラ>金沢ではないかと評価している。

ホームステイも初めてのことだったので、最初は少々大げさだが自分の英語力でどう生きていったらいいのかと、1 番心配していた部分であった。ホームステイ先は何軒かがくっついているタイプの家で、大学からバスで約 30 分程度の距離にあった。家の中は 2 階にあがってすぐいくつかの部屋に分かれており、廊下がないことに驚いた。ホストファミリーは老夫婦の 2 人暮らしで、食事は主にホストファザーが用意してくれた。また、ホストマザーが自分のプロジェクトに関連するお仕事をされていたので、貴重な意見を聞くこともでき、当初の不安は払しょくされた。私専用のバスルームを用意して頂いたり、3 週間様々な家庭料理を作っていただいたりと、快適に過ごすことができた。イギリスは食事がイマイチと聞いていたが、予想外にどの料理もおいしく、飽きることはなかった。特に、野菜の pastry というパイは日本でも食べたいなと思った。

● 観光面

今年は午後の授業がなかったので、平日は観光やお土産を購入したり、勉強したりした。また最初の週末はエジンバラで室内楽のコンサートと観光、次の週末はグラスゴーへ買い物に行った。個人的にはエジンバラが治安もよくとても良い街だと感じたので、たく

さん観光ができてよかった。渡航前に予定を組んでおく方が、効率的に観光ができると思う。



*大学の所有施設である St. Cecilia's hall に併設されている music museum。ピアノが美しくて2回通った。入館料無料なのでみなさんもぜひ行ってほしい。



*ポストカードの風景にもよく見られる Circus Lane。近くにはサンデーマーケットもあった。



* Arthur's Seat からの風景。運よく虹が見れた。

エジンバラ研修 事後報告書

1. 研修内容

①イギリス法の知識や専門用語、②英語での会話フレーズやプレゼンの方法の二つを中心に学んだ。予習資料が送られてくるので確認しておくこと。

①に関して

具体的にはイギリスの法体系や裁判所の仕組み、判例などを学んだ。英語での授業ということもあり内容が捉えづらい部分もあったが、理解が難しいところは先生に聞けば補足説明をしていただけるし、きっちりと復習すればとてもためになる知識ばかりだった。スコットランドの法廷や議会も訪問した。職員の人の説明が聞き取りづらいときはもっとゆっくり簡単に話してくださいと頼んだ方がよい。

②に関して

判例をもとにしたポスターセッションやリサーチプロジェクトなどを通して英会話やスピーキングのスキルアップを行った。街頭インタビューが喉を傷めるととてもやりづらくなるので体調管理は十二分におこななければならない。先生の指導があるのでそれをもとにしっかり準備して各自でリサーチしておけばプレゼンの準備は滞らないはずである。三週間だとあつという間なので本気で語学を上達させたいならスカイプ英会話などで事前をしっかり準備しておくことをお勧めする。



図 1 エジンバラの街並み

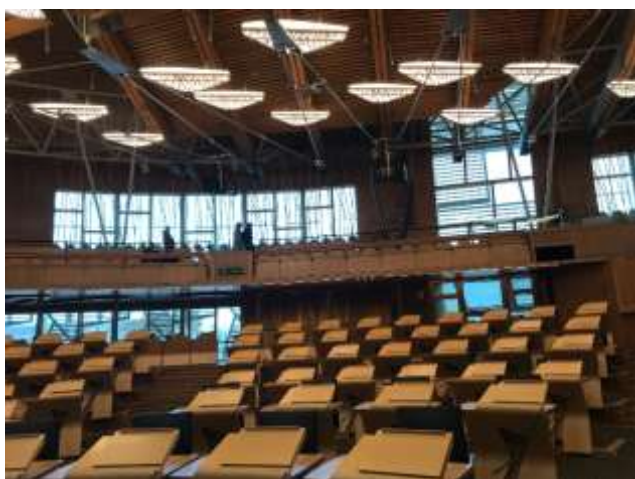


図 2 モダンなスコットランドの議会

2. 課外活動

土日は休みでそのほか週2くらいで午後は授業がなかったので課題をする時間を差し引いても観光する余裕があった。エジンバラは風景そのものがとてもきれいなのでどこを歩いても飽きない。イギリス料理はおいしいイメージがなかったが人が入っている店はどこも美味しかった。フィッシュアンドチップスは写真のない小さなお店だと日本で食べられそうな魚のフライが出てくるのでちゃんと確認して食べた方がよい。2回目のフィッシュアンドチップスはほろほろして美味しかった。2週目の連休は泊りがけでロンドンに行った。幸い大きなトラブルは無かったが、深夜に出歩くことはお勧めしない。地下鉄も油断するとスリに遭いそうなので常に貴重品の入ったポーチに手を置くなど強い防犯意識が必要である（エジンバラでも0ではないので注意）。気を付けて回ればとても楽しい場所である。個人的に美術館はエジンバラのものよりも好み。



図 3 メアリー・ポピンズ in London

(ミュージカル。話が分かりやすいし歌やダンスがポップで良い)

3. ホームステイ

コロナの影響もあって心配だったがホストファミリーは温かく迎え入れてくれた。過干渉なわけでもなく、ご飯はどれも美味しかった。ホストの受け入れ慣れしているところだと容赦ないスピードとボキャブラリーで話しかけてきてくるのでリスニングに自信のない人は事前にゆっくり簡単な言葉でなるべく話してほしいとメールで伝えておくことをお勧めする（相手はこっちの英語レベルを知らないの割と普通に話しかけてくる）。でも良い人ばかりなのでこっちが伝えようとしていけば理解しようとしてくれるし、食事のときなども話しかけてくれる（より多く会話したいなら質問を待たず自分から会話を広げていく必要がある）。今回の研修で行きたい場所や自分の好きなものを話しておけば交流につながることもあるので積極的に話した方がいい。手土産はかさばらないものがおすすめ。日本のチップなお菓子も結構喜ばれる（+αで入れると良いと思う）。

4. その他

気候は最初の二週間は雨風がひどく気温も低かった。ヒートテックやマフラー、ホッカイロなどの防寒具が必須である（マフラーは紛失しやすいため移動時には注意が必要）。また乾燥しており風邪をひきやすいので普段から医薬品を使わない人でも滅菌効果のある喉スプレーなどを持っていくことを強くお勧めする。

現金に関しては、大抵の店は VISA カードで払えるので 50 ポンドあれば余裕だと思う（5000 円⇔30 ポンドでぎりぎりだった）。インターネットの使用に関しては、ホームステイ先に Wi-Fi がある場合 3G（現地 1500 円弱）の SIM カードで不便はなかった（事前に SIM ロックの解除が必要）。

6. 感想

今回は初めての海外で不安な部分もあったが、日本と異なる文化に触れ専門分野の見聞も深まり、とても良い経験になった。費用は高いが先生やメンターも懇切丁寧に面倒をみてくださるし、日本でしっかり準備してから臨めるので不安も少ない。法学を学びつつ異文化体験がしたい人、長期留学の前段階として短期留学に挑戦したい人はぜひプログラムに参加してほしい。

研修を終えて

今回、私は3週間のエジンバラ英語法律研修に参加した。前半は、授業全般について、後半は暮らしや観光などその他のことについて、それぞれ焦点を当てて報告する。

研修の中の授業では、体感的に話すことに重点が置かれているように感じた。スコットランドやイギリスの法制度の違いについて学んだり、英語の発音や音節など、日本ではあまり意識しないような点に焦点を当てて英語について学んだりした。問題について答えるように求められたり、質問がないか尋ねられたりしたが、少人数ということもあり、とてもやりやすく感じた。しかし、その全てを英語で伝えなければいけなかったのも、それだけはとても大変だった。基本的に授業は昼過ぎに終わり、その後は国会や裁判所を見学したり、メンターたちと共にエジンバラ市街の観光をしたりした。観光はもちろん楽しんだが、前者の見学では、手荷物検査が求められたものの、それを突破さえしてしまえば自由に見学できるので、開放的だと感じた。授業の話に戻り、私たちはポスタープレゼンテーションやリサーチプロポーザルなどの発表なども行った。前者はスコットランドやイギリスで有名な、民事、刑事裁判の判決について調べ、ポスターを作成し、同じく留学に来ていた日本人学生や現地の生徒、先生方などに紹介するものであった。ポスター作成はグループで協力したものの、発表は一人で行うので、とても緊張した。後者は、日本の社会的問題を取り上げ、スコットランドやイギリスの現状と比較しつつ、現状の対策や問題点、解決案などを発表するものであった。発表は2人で共同して行うので、気はある程度楽だった。英語オンリーで人前で発表というのはとても大変だったが、終わってみればそれなりにうまくできたと感じたし、先生方からもお褒めの言葉をいただいた。

授業はとても明るい雰囲気の中で行われていたと思うし、楽しんで参加することができたと感じた。授業の内容はおおむね理解できたと思う。学んだことは自分の知識や見識の一部にできたと感じる。また、複数回あった発表を通して、もちろん緊張はするものの、ある程度緊張に耐性がつき、堂々とできるようになったのではないかと考えている。知識として得るものも多かったが、それ以外で学んだことも多かった授業だったと思う。

私のホームステイ先は、定年退職した老夫婦が住んでいる家庭だった。二人ともとても明るい人たちで、毎日家に戻ると、きょうはなにがあったのかを訪ねてくれた。普段必要以上に周りに関わらなかった私にとって、話しかけてもらえること自体嬉しかったし、うまく伝えられなかったときも、最後まで聞いてくれたので、本当に二人の家に行くことができて良かった。エジンバラの街並みは、石造りで日本のそれとは雰囲気が全く違って見えた。信号機やバスなどインフラは整備されているのだが、本の世界や一昔前のような、別の世界にいるような気がした。そのためか、市街を歩くだけでもとても楽しかった。エジンバラ城や国立博物館のような、人工の建物での観光だけでなく、Arthur's Seatのような、大自然の景観を楽しむことができた。食生活について、基本的に毎朝食と4日分の夕食をホームステイ先でとり、それ以外は自分たちで食べるという感じだった。よくご飯がまずいと聞いてい

たが、自分はそんなことはなく、普通においしいと思って食べていた。強いて言えば、値段が高かったので、中盤からは TESCO の 3 ポンド Meal のお世話になった。2 週目の週末にはロンドンへ観光をしに行った。見るものすべてが真新しいのは言うまでもなく、写真を撮りまくったり町を練り歩いたり、楽しむことができた。しかし、白昼堂々スリにあいかけ、ある意味で感心した。友達が友達自身の財布を取り返せなかったら、私も危なかったかもしれない。友達はコロナと罵倒されたとも聞いた。また、ホテルへの行き方が分からず、困ったりもした。しかし、同じホテルに泊まる予定だった中国人の女性が助けってくれた。私は、リサーチプロポーザルのために中国人の学生たちに助けられたりもしたので、個人を見ず、人種や国籍だけで人を判断し、差別するのが本当に愚かだと実感できた。とにかく、様々なトラブルはたくさんあったものの、お土産をたくさん買い、無事にエジンバラへ戻ることができた。ほかにも、ケイリーやサルサ、パチャータなどのダンスに参加して、初めての経験を重ねたり、動物園でたくさんの動物をみて、たくさんの写真を撮ったりと、毎日が充実していた。

私には海外へいった経験がなく、飛行機も初めてだったので、最初はとても不安だった。しかし、だんだんとその初めての経験たちを楽しむ余裕ができ、いろいろな経験を通して、大きく成長できたと感じている。もしこの研修に興味があるならば、参加を強くお勧めする。



動物園のペンギン
お気に入りの写真



噂のフィッシュアンドチップス
おいしかったが値段が…



ロンドンの落書き
ができるトンネル
で
絶対あれ



エジンバラ法律英語研修を終えて

私はエジンバラ大学というところに3週間留学しました。3週間のうちには平日に毎日授業があり、基本的に9時から13時まで授業をし、課題があるときなどは昼食の後に午後からも勉強をしました。週に数回は、午後メンターの人たちにエジンバラ市街のツアーに行ったり、エジンバラ議会に連れて行ってもらったり、先生と一緒に裁判所に行って裁判を傍聴したりしました。私は実際に裁判を傍聴した経験がなかったので、日本でも裁判に行っても少しも裁判のことを理解しておけばよかったと思いました。午後に予定がなく、また課題もない日は、自分たちで行きたいところを決めてでかけました。少し遠い場所に昼食を食べに行ったり、エジンバラ城に行ったりもしました。またあまり英語ができず、授業を理解することが難しいときも多々あったのですが、ほかに留学に行った人たちに説明してもらったり、先生が質問に答えてくれたりするので、困ることは少ないように感じました。しかし、自分の英語の力をもっと伸ばしたいと思う良い機会になりました。先生は、法学を専門としている先生と、そうでない先生の2人が授業を担当してくださいました。法学の授業では専門用語を習ったり、スコットランドの議会や裁判について学んだりしました。法学の授業だけでなく、スピーキングのスキルを向上するための授業があり、最後のプレゼンテーションに向けて先生が色々なアドバイスをしてくださいました。最後のプレゼンテーションでは、2人組のペアで行いました。10分ほどのプレゼンテーションを行うことになっていましたが、そのプレゼンテーションを行うためにたくさんの準備を行いました。発表のために様々なことを調べ、現地にいた何人かの人に質問し、発表のためのスライドをつくりました。日本語でなく、すべて英語だったので、本番の発表では上手く説明できない箇所もあり、少し後悔も残っています。

ホームステイ先では、ホストマザーと食事中にたくさんの会話をすることができました。また、宿題でわからないところがあれば手伝うと言ってくれたり、エジンバラでおすすめの場所や行き方を教えてくれたりと、とてもよくしてくれました。留学中は少し緊張した状態が常に続いていたのですが、ホームステイ先では落ち着いて過ごすことができました。

休日は様々な場所にでかけました。携帯で調べたレストランに行ったり、ケーキを食べに行ったり、グラスゴーに行って、大好きなハイランドカウを見に行ったら迷子になったりもしました。バスがたくさん通っているので、どこに行くのも便利で、バスでたくさんの場所に行きました。

私は、この留学で現地の人と関わり、他文化を知り、いつもとは違う環境に身を置いてみることで、その違いを通して、自分自身がどんな人間であるか、私が今まで関わってきた人がどのような人であったかということをもっと深く考えることができたと思っています。留学に行けてよかったと思うとともに、行かせてくれた人たちには感謝したいと思います。



エジンバラ法律英語研修 事後報告書

僕はこの研修で、法律や英語の知識はもちろん、それ以外にも多くのことを学びました。まず研修内容に関してですが、事前に告知があった通り、イギリスの、特にスコットランドの法制度や議会制度、裁判制度について学習しました。この研修に参加する前は、日本語でさえ内容がややこしい法律を英語で学ぶことができるのかととても不安に思っていました。しかし実際に参加してみると、内容は基本的にそんなに難しくありませんでした。日本で例えると中学の公民、高校の政治経済でやる内容に少し法の専門知識が加わった程度のものでした。人によってはそれが難しいと感じるかもしれませんが心配いりません。現地の先生がとても親切に、分かりやすい英語で教えてくれます。それでも分からない場合は一緒にプログラムに参加している日本人学生に聞くことも出来ます。また、その授業以外に、スコットランド議会や裁判所見学をすることができます。裁判所に関しては実際の裁判を傍聴しました。普通の旅行では絶対できない貴重な体験でした。そして、そのような授業を3週間受け、研修の最後には、自分たちで何かテーマを決めて、それについてのプレゼンを英語で行いました。英語でのプレゼンに抵抗を感じる人もいますがやりきることができれば達成感と自信を得られます。しかもプレゼン後には先生からかなり具体的なフィードバックをもらえるので、今後の自分のスキルアップにつながります。もちろん、プレゼンの仕方、多用する言い回しやフレーズは授業で教わります。

次にエジンバラでの生活について、一言で言えばとても快適でした。気候的には金沢とほとんど変わらず、気温が少し低かったぐらいです。ホストファミリーはとても優しく、英語がうまく話せなくても一生懸命聞いてくれます。運がよければ他の国から来ている留学生の方と一緒にホームステイできます。僕のホームステイ先は僕以外に3人の留学生がいました。また、エジンバラの街並みは、モダンな建物は少なく、いかにも西洋な建物が街中に広がっていました。どこで写真を撮っても画になるので、すぐSNS映えします。お土産屋さん多数あり、ハリーポッター生誕の地として知られているだけあって、ハリーポッターグッズを取り扱うお店もありました。観光地はエジンバラ城、アーサーズシートと呼ばれる大きな丘、国立博物館などたくさんあります。エジンバラ大学を散策するのもおもしろかったです。

エジンバラに加えて、僕はロンドンにも行きました。かの有名なビッグベンやバッキンガム宮殿に行き、紅茶等のお土産をたくさん買い、とても楽しみました。飛行機を使えば1時間半程度で行けるので、行くことを強くおすすめします。

最後に、僕はこの研修で海外旅行を楽しむのと同時に、英語に関しても海外の生活に関しても大きな自信をつけることができました。この経験を活かして今後の英語の授業、TOEIC等の資格取得に役立てるだけでなく、大人になった後も実践的に英語を使っていきたいと思います。



